



令和4年
1月 11日 発行
第 10 号
(担当 宮下)



全校朝会 1/7 校長講話

ZOOMで行われた講話を紹介します。

新年あけましておめでとうございます。

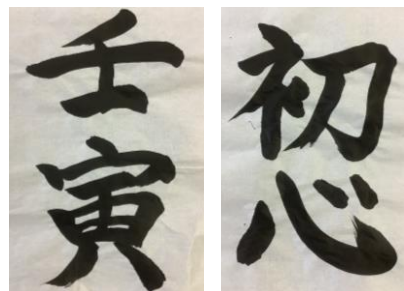
2022年、令和4年がスタートしました。干支でいうと寅年です。

詳しく調べると「壬寅（みずのえとら）」という年になるそうです。

もともと虎は、毛皮の模様から前身が夜空に輝く星と考えられた存在で「決断力と才知」の象徴として捉えられています。 「壬寅（みずのえとら）」は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎になる年回りと言われています。虎のように、勇ましくどんな逆境にも負けない年にしたいものです。

さて皆さんは、新年の決意を考えましたか？「一年の計は元旦にあり」といわれます。2022年の「志」を立てるところからスタートしていきましょう。特に3年生は、進路という人生の岐路に立っています。希望する進路を実現することはもちろんですが、その先を見据えることも大切です。

年末に東京学館新潟校の書道パフォーマンスを見る機会に恵まれました。大筆を使った力強い筆さばきや華やかでリズムカルな踊りを交えたパフォーマンスは、素晴らしいものでした。コロナ禍のために2年間、大勢の観衆のまえて、披露できなかつた苦勞をパフォーマーの生徒さんから聞きました。パフォーマンスが終わったあとの一人一人の表情はほんとうにキラキラしており、やり切った感があふれていました。東新潟中学校の卒業生もいたようで本当に頑張っていました。



東京学館新潟高校の書道パフォーマンスより

3年生は、あと約2か月後に中学校を卒業します。高校入学後に何を志すのか。

1、2年生は次の学年に進級した先に何を志すのか、何を目標にして取り組むのが大事になってきます。また、自分で立てた「志」を忘れないことが大事になります。

「初心を忘れるな」とよく言われます。もともとは室町の時代、能で有名な世阿弥のことばです。

「是非の初心忘るべからず、時々の初心忘るべからず、老後の初心忘るべからず。」が「花鏡」に示されています。ざっくり言えば物事に慣れると慢心してしまいがちだが、最初のころの志を忘れてはいけないという意味ですが、世阿弥はもっと深いことを言っているようです。

「是非の初心」は、未熟であったときの芸も忘れることなく、判断基準として芸を向上させなければならない。

「時々の初心」は、その年齢にふさわしい芸に挑むということは、その段階においては初心者であり、やはり未熟さ、拙（つたな）さがある。その一つ一つを忘れてはならない。

「老後の初心」は、老齢期になって初めて行う芸というものがあ、やはり初心がある。年を取ったから「もういい」と言うことではない。

このように、世阿弥は、その時々「志」を立てて、常に原点に戻りながらおごり高ぶることなく、謙虚に挑戦していくことで、人は成長していくことを伝えたかったのだらうと思います。

年の初めに当たり、新たな「志」をしっかりと立て、時々は初心に戻り、そして目標に向かって努力していきましょう。よい年にしていきましょう。

東新潟中ブログ

生徒の活躍を紹介中です。

是非ご覧ください。

(毎週金曜日に更新)